

武蔵野市生きものの調査報告書



令和2年3月

武蔵野市

「武蔵野市生物多様性基本方針」に基づき、平成 30 年の秋から令和元年の夏まで、武蔵野市内の 12 か所の調査地で植物、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類・クモ類、魚類・甲殻類の生きもの調査を実施しました。

本報告書では、生きもの調査で確認された種について、環境省および東京都（北多摩地域）の「レッドリスト」（絶滅のおそれのある動植物の掲載種）を中心に説明しますが、これらの種の多くは、かつて関東地方で人々の暮らしのそばで普通に見られた種がほとんどです。数を減らしている動植物が、ここ武蔵野市でこれからも安定して見られることが望まれます。

また、外来種についても外来生物法で「特定外来種」に指定されている種、環境省・農林水産省が選定した「生態系被害防止外来種」を取り上げて説明します。

なお、本報告書に使用されてる写真・イラスト等の無断転載はしないでください。

武蔵野市生きものの調査報告書

< 目 次 >

I 章 調査実施概要	1
1. 目的	1
2. 調査方法	1
3. 調査箇所	2
II 章 生きものの調査の結果	4
1. 植物	7
2. 哺乳類	10
3. 鳥類	12
4. 爬虫類	14
5. 両生類	15
6. 昆虫類・クモ類	16
7. 魚類・甲殻類	18
III 章 考察（四季を通じた調査結果から）	20
1. 確認した動植物の視点から	20
2. 調査した調査地の視点から	29
資料編（確認種リスト）	42

I 章 調査実施概要

1. 目的

平成 29 年 4 月、「武蔵野市生物多様性基本方針」を策定したことを踏まえて、生物多様性に関する本市の施策を推進するため、市内 12 か所の調査地を選び、平成 30 年から令和元年にかけて、秋季・冬季・春季・夏季の 4 シーズンに専門調査員による生きもの調査を実施しました。

2. 調査方法

①植物調査

各調査地点の環境を代表する場所に任意の調査ルートを設定し、現地踏査を行い、目撃された種を記録する。調査時間は各箇所 1 時間程度とする。確認された種についてリストを作成し、希少種、特徴的な種を抽出する。

②鳥類調査

各調査地点の環境を代表する場所に任意の調査ルートを設定し、現地踏査を行い、目撃又は鳴き声の確認された種を記録する。調査時間は各箇所 1 時間程度とする。確認された種についてリストを作成し、希少種、特徴的な種を抽出する。

③哺乳類・爬虫類・両生類調査

各調査地点の環境を代表する場所に任意の調査ルートを設定し、現地踏査を行い、痕跡又は目撃された種を記録する。調査時間（踏査）は各箇所 1 時間程度とする。確認された種についてリストを作成し、希少種、特徴的な種を抽出する。

④昆虫類調査

各調査地点の環境を代表する場所に任意の調査ルートを設定し、目視、見つけ取り、捕虫網によるスウィーピング等の調査手法により現地踏査を行う。調査時間は各箇所 1 時間程度とする。確認された種についてリストを作成し、希少種、特徴的な種を抽出する。

【捕虫網の仕様】目合：1mm 以下、枠径：42 cm、長さ：150 cm

⑤魚類・甲殻類調査

各調査地点の環境を代表する範囲を設定し、目視及び採集等により確認した種を記録する。採集は、水域の環境等に合わせた漁具（タモ網）を用いて行う。調査時間は各箇所 1 時間程度とする。確認された種についてリストを作成し、希少種、特徴的な種を抽出する。

【タモ網の仕様】目合：1mm、枠（前幅）：35 cm、長さ：140 cm

3. 調査箇所

表 調査地点

調査地	ビオトープタイプ				備 考
	樹林	草地	水辺	農地	
①都立井の頭恩賜公園	●	●			井の頭池は対象外
②成蹊大学	●	●			大学構内
③吉祥寺の杜 宮本小路公園	●	●			
④西久保公園	●	●			
⑤関前公園（グリーンパーク緑地）	●	○	●		
⑥都立武蔵野中央公園	●	●			
⑦亜細亜大学	●	○	●		大学構内
⑧境山野緑地	●	○			
⑨農業ふれあい公園	○	●	○	●	耕作地は対象外
⑩千川上水	●	○	●		
⑪仙川（桜堤公園）	○	●	●		
⑫都立小金井公園	●	●			

【凡例】 ●：主な環境タイプ、○：メインではない環境タイプ



図 調査地点

※上図：「武蔵野市生物多様性基本方針」より

①都立井の頭恩賜公園



③吉祥寺の杜 宮本小路公園



④西久保公園



⑥都立武蔵野中央公園



⑨農業ふれあい公園



⑩千川上水



⑪仙川（桜堤公園）



⑫都立小金井公園



Ⅱ章 生きものの調査の結果

環境省のホームページには、「我が国の既知の生物種数は9万種以上、分類されていないものも含めると30万種を超えると推定」と記されています。そのため、市区町村で「生きものの調査」を実施する際は、どこまで詳しく調べるか、調べられるかという点において、考慮する必要があります。

今回の調査では、植物調査では維管束植物を、昆虫類調査では陸上昆虫類とクモ類を、水生動物調査では魚類・甲殻類を対象としました。その他の哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類の調査では全ての種を対象として行いました。

調査の結果、確認された種を一覧表に整理し、国もしくは東京都がまとめているレッドデータ該当種、法制度で規制を求めている特定外来生物および生態系被害防止外来種リスト掲載種を取り上げて、生物多様性を守る視点から注目しました。

【希少種および外来種の基準とした文献】

1. 環境省レッドリスト 2018：（環境省、平成 30 年 5 月公表）
2. 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）2010 年版：（東京都、平成 22 年 3 月公表）
3. 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づき規制される生物のリスト：（環境省、平成 30 年 4 月公表）
4. 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）：（環境省、平成 28 年 3 月公表）

表 環境省レッドリストのカテゴリー区分

カテゴリー名称	表示	基本概念
絶滅	EX	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅	EW	飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ 存続している種
絶滅危惧I類	CR+EN	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧IA類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧IB類	EN	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧II類	VU	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
情報不足	DD	評価するだけの情報が不足している種
絶滅のおそれのある地域個体群	LP	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

表 東京都レッドリストのカテゴリー区分

カテゴリー名称	表示	基本概念	
絶滅	EX	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下を含めすでに絶滅したと考えられるもの	
野生絶滅	EW	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられるもの	
絶滅危惧I類	CR+EN	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの	
	絶滅危惧IA類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
	絶滅危惧IB類	EN	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧II類	VU	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの	
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの	
情報不足	DD	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないものの	
留意種	* または *1	現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため、上記カテゴリーには該当しないものの、次の①～⑧の選定理由のいずれかに該当し、留意が必要と考えられるもの ＜選定理由＞ ①準絶滅危惧(NT)に準ずる (現時点では絶滅のおそれはないが、生息環境が減少していることから動向に留意する必要がある) ②過去の環境改変により、生息地が限定されていたり、孤立個体群がある ③人為的な環境配慮により個体群が維持されている ④外来種の影響に注意する必要がある ⑤生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている ⑥自然の回復状況をあらわしている ⑦良好な環境の指標となる ⑧タイプロカリティ(基準産地、模式産地) * 3	
ランク外	○	当該地域で生育・生息が確認されているが、上記カテゴリーに該当しないもの	
データ無し	—	当該地域において生育・生息している(していた)可能性があるが、確実な記録や情報が得られなかったもの	
非分布	・	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの。但し、鳥類では、確認記録があっても当該地域が主たる生息域ではないと判断される場合*4は、非分布として扱った。	

*3 分類・命名に使用した基準となる標本を採集した地点。

*4 鳥類は、移動能力が大きいため通常の生息地域を離れて偶発的に飛来する場合がある。そのため、都内で生息記録があっても、記録回数が少なくかつ既知の生息地域から大きく外れているなど、主たる分布域ではないと判断された場合には「非分布」とした。

表 生態系被害防止外来種のカテゴリー区分

定着予防外来種		国内に未定着のもの。定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、導入の予防や水際での監視、野外への逸出・定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種。
	侵入予防外来種	国内に未侵入の種。特に導入の予防、水際での監視、バラスト水対策等で国内への侵入を未然に防ぐ必要がある。
	その他の定着予防外来種	侵入の情報はあるが、定着は確認されていない種。
総合対策外来種		国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害のおそれがあるため、国、地方公共団体、国民など各主体がそれぞれの役割において、防除（野外での取り除き、分布拡大の防止等）、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な外来種。
	緊急対策外来種	「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準として①～④のいずれかに該当することに加え、対策の実効性、実行可能性として⑤に該当する種。特に緊急性が高く、特に、各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要がある。
	重点対策外来種	「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準として①～④のいずれかに該当する種。甚大な被害が予想されるため、特に、各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高い
	その他の総合対策外来種	
産業管理外来種		産業又は公益的役割において重要であり、現状では生態系等への影響がより小さく、同等程度の社会経済的効果が得られるというような代替性がないため、利用において逸出等の防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。利用にあたっては種ごとに示す利用上の留意事項(※)に沿って適切に管理を行うことを呼びかけるもの。

< 緊急対策外来種、重点対策外来種における対策の優先度の考え方 >

（被害の深刻度に関する基準）

- ①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大
- ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い
- ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い
- ④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対し甚大な被害を及ぼす

（対策の実効性、実行可能性）

- ⑤防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る。

1. 植物

今回の調査では、48 目 121 科 496 種の植物（維管束植物）が確認されました。以下に、注目される種として、希少種、外来種をいくつか紹介します。

【希少種】ヒロハハナヤスリ、ショウブ、ヘラオモダカ、ヤマジノホトトギス、キンラン、マヤラン、エビネ、ギンラン、ササバギンラン、キツネノカミソリ、ムサシノキスゲ、カンエンガヤツリ、マツカサススキ、ウキヤガラ、アシカキ、ササクサ、ヤマブキソウ、イカリソウ、ニリンソウ、タコノアシ、チダケサシ、カワラケツメイ（以上、栽培種として植栽された可能性のある種を除く 22 種の国もしくは都のレッドデータ該当種）。

【外来種】キショウブ、メリケンガヤツリ、メリケンカルカヤ、シマスズメノヒエ、モウソウチク、コヌカグサ、オニウシノケグサ、ネズミホソムギ、ナギナタガヤ、ノハカタカラクサ、ヒイラギナンテン、ナンキンハゼ、アレチヌスビトハギ、ビワ、コマツヨイグサ、シンジュ、シャクチリンバ、エゾノギシギシ、ナガバギシギシ、トウネズミモチ、オオブタクサ、アメリカセンダングサ、ヒメジョオン、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、アメリカオニアザミ、オオキンケイギク（以上、27 種の特定外来生物および生態系被害防止外来種リスト掲載種）。

【希少種】



■ キンラン

キンランやギンランは、落葉樹林の林床に生育し、低地から山地帯かけて広く分布します。その美しい姿から古来より市民に親しまれてきた野草です。しかし、里山の雑木林等が放置され、林床の環境が変化したことや、園芸採取等により個体数は減少傾向にあります。



■ ササバギンラン

ササバギンランも、落葉樹林の林床に生育し、台地・丘陵帯から山地帯かけて分布します。キンランやギンランと同様に広く分布していますが、自生地環境変化や園芸採取により個体数は減少傾向にあるようです。



■ エビネ

山野の落葉樹林内に生育し、台地・丘陵帯から低山帯にかけて分布しますが、個体数は多くないとされています。かつては広く分布し多くの個体が見られたそうですが、エビネブームの影響で園芸用に採取され、個体数は大きく減少しました。



■ マヤラン

多くは常緑広葉樹林内に散発的に生育し、低地帯から丘陵帯に分布します。腐生ランのため、毎年必ず発生するか分らないとされています。



■ イカリソウ

二次林、植林地の林床や日当たりの良い草地などに生育し、台地から山地帯にかけて広く分布します。ランの仲間よりは絶滅の危険性は低いと考えられますが、保護されている場所は増えています。また、植栽された個体も多く注意が必要です。



■ タコノアシ

遊水池、河川敷、水田わきなどの低湿地に生育します。これまでに、開発や河川整備によって失われたところもあるとされています。生育地がもともと不安定な場所であることに加え、開発の対象になりやすく、減少要因が多い種と考えられています。

【外来種】



■ キショウブ

ヨーロッパ～西アジアに自然分布する多年生の抽水植物です。湖沼、溜池、河川、水路、湿った畑地など、日当たりの良い湿地を好み、初夏に黄色い花を咲かせます。観賞用として導入され、全国に広がっていますが、在来種や畑作物との競合、在来種のアヤメ属との交雑等の影響があるとされています。



■ メリケンガヤツリ

熱帯アメリカに自然分布する多年生の植物です。畑地、河川敷、湿地、造成地など、日当たりがよく土壌の湿った場所を好みます。日本では、関東以西～沖縄、小笠原に分布を広げており、在来種の湿生植物と競合します。



■ オオブタクサ

北アメリカに自然分布する大型の一年草です。畑地、樹園地、牧草地、河川敷、路傍、荒地、堤防など、肥沃で湿った所を好みます。飼料穀物や豆類に混ざって移入され、沖縄を含むほぼ全国に広がっています。サクラソウなどの在来種や畑作物と競合するほか、花粉症の原因とされています。



■ セイタカアワダチソウ

北アメリカに自然分布する多年草です。河川敷、土手、荒地、原野、休耕地、路傍に生育し、水不足に強い種です。観賞用、蜜源植物として導入され、全国に広がっています。ススキやヨシなどの在来種と競合するほか、根から周囲の植物の成長を抑制する化学物質を出します。



■ オオキンケイギク

北アメリカに自然分布する多年草です。路傍、河川敷、線路際などの荒地、海岸に生育し、5～7月に黄色い花を咲かせます。観賞用、緑化用として導入され、沖縄を含むほぼ全国に広がっています。在来の草本植物と競合します。

2. 哺乳類

今回の調査では、4 目 6 科 6 種の哺乳類が確認されました。在来種では、アズマモグラ、アブラコウモリ、ホンドタヌキの 3 種でした。この 3 種と外来種について紹介します。

【希少種】国もしくは都のレッドデータ該当種は確認されていない。

【外来種】クマネズミ、ハクビシン、アライグマ（以上、3 種の生態系被害防止外来種リスト掲載種）。



■ アズマモグラ

低地から標高 2000 m の高地にまで分布しますが、低地の農耕地に多く見られます。地中に網目のようなトンネルをつくり、その中に落ちてくるミミズや昆虫などの土壌動物を餌とします。農耕地や芝地の土壌表面に土を盛り上げるので嫌われますが、作物を食べるといった直接的な害を及ぼすことはありません。土壌生態系の最も大きな捕食者として重要な種です。



■ アブラコウモリ

日本では、都市部にも生息する唯一のコウモリです。家の屋根裏や雨戸の戸袋などをねぐらにしていることが多いようです。日没後に河川や池沼の上を飛びまわり、超音波を発して飛んでいる昆虫を捕らえて食べます。日本では嫌われることが多いコウモリですが、ヨーロッパでは、害虫を捕食することもあって人気のある生きものです。



■ ホンドタヌキ

低地帯では個体数は多くないと考えられますが、それ以外の地帯では個体数も多く、山地帯まで広く分布しています。

【外来種】



■ アライグマ

都市部から森林・湿地帯までの水辺に生息し、巣は木のうろや岩穴、人家や畜舎等を利用します。夜行性で、木登り・泳ぎも得意。雑食性で、小型の哺乳類から鳥類、魚類・両生類・爬虫類・昆虫類のほか、野菜・果実・穀類等も食べます。全国的に広がりを見せ、在来中型哺乳類との競合、鳥類への営巣妨害、野生生物の捕食、農業被害、文化財への侵入・損壊、病原体の媒介等多くの影響が懸念されています。



■ ハクビシン

市街地から山間部まで生息し、夜行性で、昼間は樹洞や岩穴、人家の屋根裏等で休憩し、夜になると樹上で果実や種子を食べます。雑食性で、果実や種子を好み、昆虫類、魚類、残飯等も食べます。在来種との分布域や食性の競合、農業被害、人家への侵入等の影響が懸念されています。

3. 鳥類

今回の調査では、10目23科32種の鳥類が確認されました。以下に、注目される種として、希少種、外来種をいくつか紹介します。

【希少種】オオタカ、ツミ、フクロウ、カワセミ、アオゲラ、モズ、ヤマガラ、エナガ、ウグイス（以上、9種の国もしくは都のレッドデータ該当種）。

【外来種】ワカケホンセイインコ（生態系被害防止外来種リスト掲載種）。

【希少種】



■ オオタカ

平地から山地の林や農耕地、河川敷などに生息し、主に中・小型鳥類を捕食します。かつて、低地帯では冬季でも生息数が少なかったが、現在は低地帯の社寺林や屋敷林などで営巣する個体が増えています。生態系の頂点に位置する種であることから、生態系保全の指標として保護対策が推進されています。



■ ツミ

低地帯から低山帯に留鳥として生息し、平地から山地の林、市街地の公園の林などで繁殖します。個体数は増加傾向にあるとされていますが、生息環境は必ずしも良くなっていないと考えられています。



■ カワセミ

低地帯から低山帯にかけての河川、池沼に周年生息し、小魚や小さいザリガニ、エビなどを捕らえて食べます。かつて水質悪化のため都市近郊でいなくなりましたが、水質改善と共に都市河川でも姿が見られるようになり、繁殖もしています。土の崖にくちばしで巣穴を掘るため、水辺に適地がないと人が掘った穴や残土等の土盛に巣を造ることもあります。



■ アオゲラ

かつての主な生息地は低山帯から山地帯だったと考えられていますが、雑木林が放置され成熟した落葉広葉樹林に変わり、キツツキ類にとって好適な生息環境が整ったことから台地・丘陵帯での繁殖記録が増加しています。また、現在は低地帯でも雑木林や公園なので繁殖記録が増加しています。



■ モズ

開けた森林や林縁、河畔林、農耕地などに生息します。動物食で、昆虫、両生類、小型爬虫類、小型の鳥類や哺乳類なども食べます。獲物を木の枝等に突き刺す「はやにえ」という習性を持っています。



■ ヤマガラ

主に丘陵帯から山地帯の森林に生息し繁殖します。山地帯においては、一時増加傾向にありましたが、現在は再び減少傾向に転じたと報告されています。その原因としては、ニホンジカの採食影響などに伴う生息環境の悪化が考えられています。冬季になると低地帯まで降りて来る個体が多くいます。



■ ウグイス

下生えの多い林、ササやぶ、ヨシ原、林縁の茂みなどにすみ、市街地や公園、庭の植え込みでも見られます。台地・丘陵帯の林の手入れが行き届かなくなったことで下層植生が本種の生息に好適なものとなり、増加傾向にあるようです。

【外来種】



■ ワカケホンセイインコ

公園の樹木、人家の庭木、大木が残る神社や寺に生息し、高さ 20m 以上のケヤキの樹洞に営巢することが多いとされています。食性は、樹木の冬芽、葉、果実、花、多肉植物、脂身等。在来の樹洞性鳥類と営巢場所を巡る競合の可能性があるほか、電柱への営巢が漏電事故の原因となります。また、農作物への被害が生じる恐れもあります。

4. 爬虫類

今回の調査では、1 目 3 科 3 種の爬虫類が確認されました。以下に、確認された爬虫類について紹介します。

【希少種】ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、アオダイショウ（以上、3 種の国もしくは都のレッドデータ該当種）。

【外来種】特定外来生物および生態系被害防止外来種リスト掲載種は確認されていない。

【希少種】



■ ヒガシニホントカゲ

低地から山地まで広範囲に生息し、開けた林道沿いや、川辺などの日当たりの良い場所に見られます。寺社の石垣など隠れ場所や日光浴に適している環境が必要なため、都市部では広い社寺林のある寺社周辺に限られてきています。台地・丘陵帯でも河川改修や大規模開発などの影響による個体数の減少が懸念されています。



■ ニホンカナヘビ

低地から山地まで広範囲に生息し、草むらなど日当たりの良い場所を好み、公園の緑地、水田の畦、人家の生垣、畑地など人為的な環境にも適応しています。緑地面積の減少による生息適地の減少、道路等造成に伴う生息地の分断などによって、個体数の減少がみられる地域があります。



■ アオダイショウ

低地から山地まで広く生息し、森林、水田、住宅地まで様々な環境に適応しています。樹上性が強く、鳥類の雛や卵、ネズミ類を好み、幼蛇はカエルやトカゲを餌とするため、これら餌となる動物が豊富な里山環境は生息適地といえます。

5. 両生類

今回の調査では、1 目 3 科 4 種の両生類が確認されました。以下に、確認された両生類について紹介します。

【希少種】ニホンアカガエル、トウキョウダルマガエル、ニホンアマガエル（以上、3 種の国もしくは都のレッドデータ種）、また、普通種としてアズマヒキガエル。

【外来種】特定外来生物および生態系被害防止外来種リスト掲載種は確認されていない。

【希少種】



■ ニホンアカガエル

丘陵地の雑木林の林床、河川敷内の湿地などに生息し、2～4 月頃湿田、湿地、浅い池沼などに産卵します。耕作放棄による湿田の減少、開発等により生息地の分断化が進行し、数を大きく減らしています。安定的に繁殖できる生息地が少ないうえ、アライグマによる捕食も確認されるなど、個体数減少の原因は多岐にわたっています。



■ トウキョウダルマガエル

丘陵地から平地の水田と、周辺の水路や浅い池沼、河川敷の湿地などに生息し、水辺からほとんど離れずにいます。産卵は水田の湛水期である5～7月頃におこなわれ、産卵場所は水田にほぼ依存しているとされています。水田の減少や用排水路のコンクリート化などの影響を受け生息地が減少しています。



■ ニホンアマガエル

丘陵地から平地の水田・湿地などの浅い止水面で、5～7 頃に少数ずつ産卵し、1～2 年ほどで性成熟します。昆虫やクモなどを捕食します。吸盤を持つことで、用排水路がコンクリート化された後でも影響を受けにくく、ニホンアカガエルやトウキョウダルマガエルよりは現在も広く分布しています。

6. 昆虫類・クモ類

今回の調査では、11 目 82 科 226 種の昆虫類、1 目 5 科 7 種のクモ類が確認されました。以下に、注目される種として、希少種、外来種をいくつか紹介します。

【希少種】 ショウリョウバッタモドキ、ヒゲブトハナムグリ、ヒメトラハナムグリ、ハチモドキハナアブ（以上 4 種の国もしくは都のレッドデータ該当種）。

【外来種】 アカボシゴマダラ（特定外来生物および生態系被害防止外来種リスト掲載種）。

【希少種】



■ ショウリョウバッタモドキ

イネ科草本の草原に生息しますが、特にチガヤ群落を好みます。草本類に縦に止まり静止していることが多く、生態はイナゴ類やササキリ類に類似しています。造成地など一時的に造られた草地環境で、短期的な発生の後に移動することが多いようです。草地の植生がセイタカアワダチソウやアレチウリなどが優占すると個体群は消失します。



■ ヒゲブトハナムグリ

東京都のレッドデータによると、武蔵野市のある北多摩地域で準絶滅危惧、東京 23 区内では絶滅危惧 I B 類に該当します。平地から低山地の、樹林に隣接した明るい草地に多く、1960 年代までは 23 区内でも普通に見られましたが、最近ほとんど見られなくなりました。発生に好適な草地が年々少なくなっていることから、生息地、個体数とも減少しています。



■ ヒメトラハナムグリ

東京都のレッドデータによると、武蔵野市のある北多摩や南多摩地域で準絶滅危惧、東京 23 区内では絶滅危惧 I B 類に該当します。樹林性で、主に丘陵地から低山地で見られますが、樹林環境の保全状態がよければ 23 区内でも少数ながら生息しています。1960 年代から個体数が激減し、北多摩や南多摩でも個体数は少なくなりつつありますが、生息地での発生は比較的安定しています。

【その他の注目種】



■ ヒグラシ

今回の調査ではタイミングが合わず確認されませんでしたが、東京都のレッドデータによると、武蔵野市のある北多摩地域で準絶滅危惧に該当します。朝夕に甲高い声でカナカナカナと鳴きます。北海道、本州、四国、九州に広く分布しますが、薄暗い林を好むとされ、東京都では数を減らしています。



■ ハグロトンボ

東京都のレッドデータによると、武蔵野市のある北多摩地域では普通種ですが、東京 23 区内では絶滅危惧Ⅱ類に該当します。本州、四国、九州に分布し、平地や丘陵地の河川の岸辺の水生植物(特に沈水植物)の茂る安定したゆるやかな流れと、薄暗い林が隣接した環境を好むとされ、数が減っている地域もあります。

【外来種】



■ アカボシゴマダラ

都市から里山まで生息し、幼虫期はエノキ属の樹木の葉を食べます。侵入経路は人為的な放蝶によると考えられており、関東全域に分布を拡大しています。幼虫期にエノキを食べるオオムラサキやゴマダラチョウ、テングチョウ等の在来チョウ類と競合します。

7. 魚類・甲殻類

今回の調査では、3 目 4 科 11 種の魚類、1 目 2 科 2 種の甲殻類が確認されました。以下に、注目される種として、希少種、外来種をいくつか紹介します。

【希少種】カマツカ、ニゴイ、ミナミメダカ（以上、3 種の国もしくは都のレッドデータ該当種）。

【外来種】アメリカザリガニ（生態系被害防止外来種リスト掲載種）。

【希少種】



■ カマツカ

本州から九州にかけて広く分布します。砂地の河川を好み、砂と一緒にイトミミズやユスリカ等の底生動物を吸い込み、エラの穴から砂だけを吐き出します。都市部では、河川の改修や川底に汚泥がたまるなどにより個体数が減っています。



■ ニゴイ

成魚はコイに似ていることが名前の由来です。本州から九州にかけて広く分布します。水生昆虫や小型の魚類のほか、藻類を食べます。主に河川に生息し、比較的水質の汚れにも強いとされていますが、東京都の 23 区や多摩地域では数を減らしています。



■ ミナミメダカ

平野部の河川、池沼、水田、用水路等に生息しますが、水際帯に水生植物群落が必要です。用排水路のコンクリート三面護岸、農業用水の冬期止水、沈水植物の除草や河床の浚渫、水田面と排水路面の落差により減少しています。また、他の地域から移植されたものや人為的に繁殖させた個体が放流されており、在来個体群への遺伝的攪乱の影響が危惧されています。

【外来種】



■ カワムツ

河川の流れの緩やかな淵に多く生息します。岩の間や柳の下などに隠れる性質が強く、主に日中に活動し、ナワバリを形成します。食性は、水面に落下した昆虫や底生動物、付着藻類。自然分布は岐阜県以西ですが、関東地方に移入され多くの地域で確認されています。在来のアブラハヤやウグイなどとの競合が懸念されます。



■ アメリカザリガニ

湿地や水田とその周辺等に生息します。植生は、水草や淡水の底生生物。アメリカの業者から食用ウシガエルの養殖用の餌として移入され、全国に分布しています。水草や淡水の底生生物に対する捕食と競合、ザリガニカビ病を媒介する等の影響が懸念されています。

Ⅲ章 考察（四季を通じた調査結果から）

1. 確認した動植物の視点から

① 希少種等

今回の生きもの調査において生育・生息が確認された種について、国レベルの希少種として環境省のレッドリスト掲載種、都道府県レベルの希少種として東京都（北多摩地域）のレッドリスト掲載種は以下の通りです。

【植 物】

今回の調査で植物（維管束植物）は、48 目 121 科 496 種が確認されました。

栽培種として植栽された可能性のある種を除くと、22 種の国もしくは都のレッドデータ該当種が記録されました。

環境省のレッドリスト掲載種では、人為的に移植されたものを除くと、ラン科のキンラン、マヤラン（共に絶滅危惧Ⅱ類）、シラン、エビネ（準絶滅危惧）、アヤメ科のカキツバタ（準絶滅危惧）、カヤツリグサ科のカンエンガヤツリ（絶滅危惧Ⅱ類）、ユキノシタ科のタコノアシ（準絶滅危惧）が確認されました。

東京都（北多摩地域）のレッドリストでは、上記のほか、ハナヤスリ科のヒロハハナヤスリ（絶滅危惧ⅠB類）、ショウブ科のショウブ（準絶滅危惧）、オモダカ科のヘラオモダカ（準絶滅危惧）、ラン科のギンラン（絶滅危惧Ⅱ類）、ササバギンラン（準絶滅危惧）、ヒガンバナ科のキツネノカミソリ（絶滅危惧Ⅱ類）、ススキノキ科のムサシノキスゲ（絶滅危惧Ⅱ類）、ユリ科のヤマジノホトトギス（準絶滅危惧）、カヤツリグサ科のマツカサススキ（絶滅危惧Ⅱ類）、イネ科のアシカキ、ササクサ（共に準絶滅危惧）、ケシ科のヤマブキソウ（絶滅危惧ⅠA類）、メギ科のイカリソウ（絶滅危惧ⅠB類）、キンポウゲ科のニリンソウ（準絶滅危惧）、ユキノシタ科のチダケサシ（絶滅危惧ⅠB類）、マメ科のカワラケツメイ（絶滅危惧Ⅱ類）など 17 種が確認されました。特に、雑木林の林床に生育する種のほか、限られた水辺に生育する希少種も確認されたことは注目されます。



確認された植物の希少種（左上：マヤラン、右上：タコノアシ、
左下：ヤマジノホトトギス、右下：カワラケツメイ）

【哺乳類】

哺乳類については、環境省のレッドリスト、東京都（北多摩地域）のレッドリストに掲載されている種は確認されませんでした。しかしながら、在来種であるアズマモグラ、アブラコウモリ、ホンドタヌキは、都市における生物群集の安定性を保つ意味からも、重要な役割を持つものと考えられます。



確認された哺乳類（左：ホンドタヌキ、右：アズマモグラ(塚)）

【鳥 類】

環境省のレッドリスト掲載種では、タカ科のオオタカ（準絶滅危惧）の 1 種のみの確認でしたが、市民観察会の際に、同じく準絶滅危惧に該当するハイタカが確認されました。

東京都（北多摩地域）のレッドリストでは、上記のほか、タカ科のツミ（絶滅危惧ⅠA類）、聞き取りによりフクロウ科のフクロウ（絶滅危惧ⅠB類）、モズ科のモズ（絶滅危惧Ⅱ類）、カワセミ科のカワセミ、キツツキ科のアオゲラ、シジュウカラ科のヤマガラ、エナガ科のエナガ、ウグイス科のウグイス（いずれも準絶滅危惧）が確認されました。特に、都市における生態系の高次消費者であるオオタカ、ハイタカ、ツミ、フクロウの生息が確認されたことは注目されます。



確認された鳥類の希少種（左：オオタカ（ドバト食痕）、右：エナガ）

【爬虫類】

環境省のレッドリスト掲載種は確認されませんでした。東京都（北多摩地域）のレッドリストに掲載されている種として、トカゲ科のニホントカゲ、カナヘビ科のニホンカナヘビ（共に絶滅危惧Ⅱ類）、ナミヘビ科のアオダイショウ（準絶滅危惧）が確認されました。確認された爬虫類３種はいずれも東京都のレッドリスト掲載種であったことは注目されます。



確認された爬虫類の希少種（左：カナヘビ、右：アオダイショウ（脱皮痕））

【両生類】

環境省のレッドリスト掲載種では、アカガエル科のトウキョウダルマガエル（準絶滅危惧）が確認されました。

東京都（北多摩地域）のレッドリストに掲載されている種として、アカガエル科のニホンアカガエル（絶滅危惧ⅠＢ類）、アマガエル科のニホンアマガエル（絶滅危惧Ⅱ類）のほか、アズマヒキガエルの生息が確認されました。



他地域で撮影した東京都レッドリスト両生類掲載種
（左：ニホンアカガエル卵塊、右：アズマヒキガエル卵塊）

【昆虫類】

環境省のレッドリスト掲載種は確認されませんでした。東京都（北多摩地域）のレッドリストに掲載されている種として、バッタ科のショウリョウバッタモドキ（絶滅危惧Ⅱ類）、コガネムシ科のヒゲブトハナムグリ、ヒメトラハナムグリ（共に準絶滅危惧）、ハナアブ科のハチモドキハナアブ（留意種）の4種が確認されました。この他に、北多摩地域では非分布と記載され、本土部において準絶滅危惧に位置付けられているコガネグモ科のムツトゲイセキグモが確認されました。



確認された水生動物の希少種（左：ショウリョウバッタモドキ、
右：ムツトゲイセキグモ）

【水生動物】

環境省のレッドリスト掲載種では、メダカ科のミナミメダカ（絶滅危惧Ⅱ類）の1種のみの確認でした。

東京都（北多摩地域）のレッドリストでは、上記のほか、コイ科のカマツカ、ニゴイ（共に準絶滅危惧）が確認されました。在来種としては、聞き取りにより東京都（北多摩地域）のレッドリストに絶滅危惧Ⅱ類として掲載されているコイ科のアブラハヤが生息すると報告がありましたが、今回は確認されませんでした。今後の調査の動向が注目されます。



確認された水生動物の希少種（左：ミナミメダカ、右：ニゴイ）

② 外来種

今回の生きもの調査において生育・生息が確認された種について、外来生物法における「特定外来生物」、及び環境省・農林水産省が選定した「生態系被害防止外来種」に指定されている種は以下の通りです。

【植 物】

外来生物法における「特定外来生物」ではキク科のオオキンケイギクが確認されました。また、「生態系被害防止外来種」としては、アヤメ科のキシノウズ、カヤツリグサ科のメリケンガヤツリ、イネ科のメリケンカルカヤ等、メギ科のヒイラギナンテン、トウダイグサ科のナンキンハゼ、マメ科のアレチヌスビトハギ、アカバナ科のコマツヨイグサ、ニガキ科のシンジュ、タデ科のシャクチリソバ等、モクセイ科のトウネズミモチ、キク科のオオブタクサ等、今回の調査において計 27 種が確認されました。これらの指定種以外にも多数の外来種や品種改良等が行われている栽培種が確認されました。都市部において共通する課題ではありますが、在来種の保全・再生を考える上での課題です。



確認された植物の外来種

(左上：オオキンケイギク、右上：キシノウズ、
下：外来種群落 “ワイルドフラワー”)

【哺乳類】

外来生物法における「特定外来生物」では、アライグマ科のアライグマの生息が確認されました。また、「生態系被害防止外来種」としては、ネズミ科のクマネズミ、ジャコウネコ科のハクビシンが確認されました。アライグマやハクビシンは、在来種のホンダタヌキと競合します。また、クマネズミは、未確認ではありますが生息が予想されるネズミ科のアカネズミやハタネズミと競合するほか、人間生活にも有害であるため注視する必要があります。



確認された哺乳類の外来種（左：ハクビシン、右：アライグマ(足跡)）

【鳥 類】

外来生物法における「特定外来生物」の生息は確認されませんでした。「生態系被害防止外来種」としては、インコ科のワカケホンセイインコが確認されました。また、日本の侵略的外来種ワースト 100 に挙げられているドバトが多数確認されました。ワカケホンセイインコやドバトは、在来種との競合が懸念されるほか、人間生活にも有害であるため注視する必要があります。



確認された鳥類の外来種（左：ドバト、右：ワカケホンセイインコ）

【爬虫類】

外来生物法における「特定外来生物」のほか、「生態系被害防止外来種」の生息は確認されませんでした。周辺地域の情報を元に考えると、「生態系被害防止外来種」であるヌマガメ科のアカミミガメの生息可能性について注視していく必要があります。



他地域で撮影した生態系被害防止外来種（アカミミガメ）

【両生類】

外来生物法における「特定外来生物」のほか、「生態系被害防止外来種」の生息は確認されませんでした。周辺地域の情報を元に考えると、西日本由来の地域移入種であるアカガエル科のヌマガエルが分布を広げており注視していく必要があります。



他地域で撮影した地域移入種（ヌマガエル）

【昆虫類】

外来生物法における「特定外来生物」、及び「生態系被害防止外来種」に指定されているタテハチョウ科のアカボシゴマダラが確認されました。本種は、オオムラサキ・ゴマダラチョウ・テングチョウなど、幼虫期にエノキを利用するチョウ類との競合が懸念されます。また、その他の外来種として、マツムシ科のアオマツムシ、カメムシ科のキマダラカメムシ、ミツバチ科のセイヨウミツバチ等も確認され、在来種との競合が懸念されます。また、害虫として知られるアオバハゴロモ科のアオバハゴロモが確認されました。本種は、大発生すると果樹の樹勢が弱るほか果樹類の果梗部分に寄生すると落果の原因になるため、注視する必要があります。



確認された昆虫類の外来種（左：アカボシゴマダラ、右：キマダラカメムシ）

【水生動物】

外来生物法における「特定外来生物」は確認されませんでした。が、「生態系被害防止外来種」のアメリカザリガニが全ての水辺環境で確認されました。また、西日本由来の地域移入種であるコイ科のカワムツ、ドンコ科のドンコ、観賞用として品種改良されたメダカ科のヒメダカ、コイ科のキンギョが確認され、これらの種は在来種との競合が懸念されることから今後も注視していく必要があります。



確認された魚類の外来種等（左：カワムツ、右：ヒメダカ）

2. 調査した調査地の視点から

今回の生きもの調査における市内 12 箇所の各調査箇所について、確認された動植物種の傾向を含め、「樹林」「草地」「水辺」の各環境タイプ、及び「生態的回廊」の観点に注目して、以下のとおり整理しました。

① 吉祥寺地域

本地域からは、都立公園の「井の頭公園」、市立公園の「吉祥寺の杜 宮本小路公園」のほか、「成蹊大学」の 3 地区を抽出して調査を実施しました。

② 中央地域

本地域からは、都立公園の「武蔵野中央公園」、市立公園の「西久保公園」、「関前公園（グリーンパーク緑地）」の 3 地区を抽出して調査を実施しました。

③ 武蔵境地域

本地域からは、都立公園の「小金井公園」、市立公園の「境山野緑地」、「農業ふれあい公園」、水辺空間として「千川上水」、「仙川（桜堤公園）」のほか、「亜細亜大学」の 6 地区を抽出して調査を実施しました。

【都立井の頭恩賜公園】

現地写真	 秋		 冬			
	 春		 夏			
	ビオトープ タイプ	樹林 ●	草地 ●	水辺 ＊	農地 －	生態的回廊 ●
	確認された 動植物	・ 植物は、樹林性の種が豊富で 170 種と最多確認でした。 ・ 哺乳類は、在来種ホンダヌキなど 5 種と最多確認でした。 ・ 鳥類は、猛禽類の飛翔確認を含め 19 種が確認されました。 ・ 両生類・爬虫類は、2 種が確認されました。 ・ 昆虫類・クモ類は、樹林性や草地性の種が豊富で 96 種と最多でした。 ＊ 井の頭池は市外であるため水生動物の調査を実施していません。				
地区の特色 と課題	・ 本市の南東端に位置する自然の大拠点であり、井の頭池から玉川上水を通じて市内の生きもの移動経路となる生態的回廊（コリドー）の機能を有しています。 ・ 高次消費者の存在を含め樹林性・草地性の動植物が豊富でした。 ・ 限られた緑地空間での飼い犬の散歩、野良猫の存在は、生息する野生動物にとっての圧迫要因となる懸念があります。 ・ かいぼりによる在来種の保全が行われている井の頭池、また、一部に地域の自然空間を再現している井の頭自然文化園など、生物多様性に関わる様々な自然的・人的資源があります。					

【成蹊大学】

現地写真	 秋		 冬			
	 春		 夏			
	ビオトープ タイプ	樹林 ●	草地 ●	水辺 —	農地 —	生態的回廊 ●
	確認された 動植物	・ 植物は、樹林性、草地性の種がバランス良く確認され 159 種と比較的 多く確認されました。 ・ 哺乳類は、在来種ホンダヌキなど 4 種が確認されました。 ・ 鳥類は、猛禽類のほか、冬鳥のヒガラ、アトリなど 19 種が確認されま した。 ・ 両生類・爬虫類は 1 種確認されました。 ・ 昆虫類・クモ類は、ショウリョウバッタなどのバッタ類、イチモンジセ セリなどのチョウ類など、都立井の頭恩賜公園に次いで 64 種と比較的 多く確認されました。 ※ 水生動物については、調査を実施していません。				
地区の特色 と課題	・ 大学の校舎を取り囲むように樹林環境が形成されており、小・中・高の 各学校内の自然環境や周辺の街路樹を含め生態的回廊（コリドー）とし ての機能も備わっています。 ・ 高次消費者の存在を含め樹林性・草地性の動植物が豊富でした。 ・ 飼い犬の散歩、野良猫の確認は無く、その点から野生動物にとっての圧 迫要因は避けられていると考えられます。 ※ 冬の野鳥観察を通じた市民観察会を実施しました。今後も環境学習の場 として利用するなど、関係者との連携を図ることが考えられます。					

【吉祥寺の杜 宮本小路公園】

現地写真	 秋		 冬			
	 春		 夏			
	ビオトープ タイプ	樹林 ●	草地 ●	水辺 —	農地 —	生態的回廊 —
	確認された 動植物	・ 植物は、希少種が栽培されている一方で、モウソウチクなど注意を要する外来種を含め 102 種が確認されました。 ・ 哺乳類は、外来種ハクビシンほか 3 種が確認されました。 ・ 鳥類は、都市鳥を中心に外来種ワカケホンセイインコを含め 9 種と少ないです。 ・ 両生類・爬虫類は、確認されませんでした。 ・ 昆虫類は、都市部に生息する種を中心として、外来種アカボシゴマダラなど、確認種数は 27 種と少ないです。 ※ 水生動物については、調査を実施していません。				
地区の特色 と課題	・ 市街地の中に造られた小拠点ですが、武蔵野の里山的な景観が再現され植栽された木本類・草本類についても在来を意識した構成になっています。 ・ 周囲が高度に都市化されている中で、面積も限られた公園のため、現状では都市部に典型的な生物群集が形成されています。 ・ 限られた緑地空間で飼い犬の散歩、野良猫の存在は、生息する野生動物にとっての圧迫要因となる懸念があります。 ・ 特定外来生物の対策を含め生物多様性の保全・再生に向けた検討が望まれます。					

【西久保公園】

現地写真	 秋  冬  春  夏				
ビオトープ タイプ	樹林	草地	水辺	農地	生態的回廊
	●	●	—	—	●
確認された 動植物	・ 植物は、草地性の植物が中心で確認種数は 77 種と最少でした。 ・ 哺乳類は、在来種アブラコウモリほか 3 種が確認されました。 ・ 鳥類は、ハクセキレイやカワラヒワなど水辺の鳥を含む 15 種が確認されました。 ・ 両生類・爬虫類は、確認されませんでした。 ・ 昆虫類は、隣接する玉川上水からの飛来と推定されるトンボ類のほか、バッタ類やチョウ類など草地性の種を中心に 34 種が確認されました。 ※ 水生動物については、調査を実施していません。				
地区の特色 と課題	・ 本市の中央部南端に位置する自然の中拠点であり、隣接する玉川上水を含め生態的回廊（コリドー）としての要素も備わっています。 ・ 隣接する玉川上水から移動して来る水辺の動物を含め、今後の環境管理の工夫によってさらに多くの種が生息可能と考えられます。 ・ 限られた緑地空間で飼い犬の散歩、野良猫の存在は、生息する野生動物にとっての圧迫要因となる懸念があります。 ・ 比較的面積の広い公園であり、生物多様性の面からも将来像を明確にして目指す環境についての周知が望まれます。				

【関前公園（グリーンパーク緑地）】

現地写真	 秋  冬  春  夏				
ビオトープ タイプ	樹林	草地	水辺	農地	生態的回廊
	●	●	●	隣接	●
確認された 動植物	・ 植物は、樹林性、草地性、水辺性の種がバランス良く生育しており、計 131 種が確認されました。 ・ 哺乳類は、在来種アズマモグラ、外来種クマネズミの 2 種が確認されました。 ・ 鳥類は、都市鳥を中心に外来種ワカケホンセイインコなど 13 種が確認されました。 ・ 両生類・爬虫類は、確認されませんでした。 ・ 昆虫類・クモ類は、トンボ池でトンボ類の幼虫（ヤゴ）のほか 42 種が確認されました。 ・ 魚類・甲殻類は、在来種のもつご、ドジョウのほか、観賞魚のヒメダカやキンギョを含む 7 種が確認されました。				
地区の特色 と課題	・ 周辺に比較的多くの農地が残されており、住宅街にあって樹林・草地・水辺の環境要素を備えており、生きもの生息場のみならず、移動経路（コリドー）としての機能を有しています。 ・ 樹林・草地・水辺に生育・生息する種を観察することが可能であり、環境学習の場としての利用も望めます。 ・ 限られた緑地空間で飼い犬の散歩、野良猫の存在は、生息する野生動物にとっての圧迫要因となる懸念があります。 ・ トンボ池の保全と利用の在り方については、関係者を交えた検討の機会を設け、将来像を明確にして目指す環境についての周知が望めます。				

【都立武蔵野中央公園】

現地写真					
ビオトープ タイプ	樹林 ●	草地 ●	水辺 —	農地 —	生態的回廊 ●
確認された 動植物	・ 植物は、草地性の種が中心であり、確認種数は 114 種でした。 ・ 哺乳類は、外来種クマネズミ 1 種のみ確認でした。 ・ 鳥類は、渡りの途中で飛来したと推察されるツツドリ、冬鳥ではマヒワの群れなど 17 種が確認されました。 ・ 両生類・爬虫類は、3 種が確認されました。 ・ 昆虫類・クモ類は、豊富なバッタ類を中心に計 62 種が確認されました。 ※ 水生動物については、調査を実施していません。				
地区の特色 と課題	・ 本市の中央部に位置する自然の大拠点であり、関前緑道と合わせ市内の生きものの移動経路となる生態的回廊（コリドー）の機能を有しています。 ・ 草地管理のモデルとして、環境学習の場としての利用も望めます。 ・ 限られた緑地空間で飼い犬の散歩、野良猫の存在は、生息する野生動物にとっての圧迫要因となる懸念があります。 ・ 広大な敷地にあって、アズマモグラの生息が確認されなかったことは、土壌生物の面から課題がある可能性が伺えます。				

【亜細亜大学】

現地写真					
ビオトープ タイプ	樹林	草地	水辺	農地	生態的回廊
	●	○	●	—	●
確認された 動植物	・ 植物は、水辺性の種が豊富であり、確認種数も 138 種と多かったです。 ・ 哺乳類は、在来種アズマモグラ、ホンダタヌキのほか、外来種アライグマの計 3 種が確認されました。 ・ 鳥類は、都市鳥を中心に 13 種と少ないです。 ・ 両生類・爬虫類は、4 種が確認されました。 ・ 昆虫類・クモ類は、計 55 種とあまり多くは無いが、肉食性のオオカマキリなど各グループがバランス良く確認されました。 ・ 魚類・甲殻類は、在来種のドジョウほか外来種を含め 5 種が確認されました。				
地区の特色 と課題	・ 大学構内を仙川が流れる水辺環境が形成されており、仙川を通じて市内の生きものの移動経路となる生態的回廊（コリドー）の機能を有しています。 ・ 希少種を含め水辺の生物群集が形成され、貴重な空間を有しています。 ・ 飼い犬の散歩、野良猫の確認はほとんど無く、その点でも野生動物にとっての圧迫要因は避けられていると考えられます。 ・ 特定外来生物のアライグマが確認され、今後の生態系に対する影響が懸念されることから対策が望まれます。 ※ 春の鳥類・チョウ類の観察を通じた市民観察会を実施しました。今後も環境学習の場として利用するなど、関係者との連携を図ることが考えられます。				

【境山野緑地】

現地写真					
ビオトープ タイプ	樹林 ●	草地 ○	水辺 —	農地 —	生態的回廊 ●
確認された 動植物	・ 植物は、林床に生育する種を中心に 114 種が確認されました。 ・ 哺乳類は、在来種アズマモグラ 1 種のみ確認でした。 ・ 鳥類は、10 種と少なかったが、キツツキの仲間が 2 種確認されました。 ・ 両生類・爬虫類は、確認されませんでした。 ・ 昆虫類は、確認種数 50 種と多くなかったが、ゴマダラチョウをはじめここでしか確認されない種が多く含まれていました。				
地区の特色 と課題	・ 本市西部の樹林環境として比較的規模の大きな拠点であり、樹林環境の保全に向けた管理が行われています。 ・ 樹林管理のモデルとして、環境学習の場としての利用も望めます。 ・ 飼い犬の散歩、野良猫の確認は無く、その点では野生動物にとっての圧迫要因は避けられていると考えられます。				

【農業ふれあい公園】

現地写真					
ビオトープ タイプ	樹林 ○	草地 ●	水辺 ○	農地 ●	生態的回廊 ●
確認された 動植物	・ 植物は、農地としては計 104 種と多く確認されました。 ・ 哺乳類は、在来種ホンドタヌキなど 4 種が確認されました。 ・ 鳥類は、冬鳥でアオジが確認されるなど、農地に多く見られる種を中心に 14 種が確認されました。 ・ 両生類・爬虫類は、1 種のみで確認でした。 ・ 昆虫類・クモ類は、肉食性のオオカマキリのほかバッタ類が豊富であり、計 50 種が確認されました。 ・ 水生動物は、魚類の確認は無く、甲殻類でカワリヌマエビ属の 1 種と外来種アメリカザリガニの 2 種が確認されました。				
地区の特色 と課題	・ 本市では、戦前に比べて畑地が大きく減少しましたが、ここには比較的まとまった農地環境が存在しており、武蔵野の里山的な環境が再現されています。 ・ 農地空間でありながら、草地・水辺の環境要素を備え、農薬の散布も行われていないからか動植物種も比較的豊富でした。 ・ 飼い犬の散歩、野良猫の確認はほとんど無く、その点では野生動物にとっての圧迫要因は避けられていると考えられます。 ・ 外来種のアメリカザリガニについては、水辺の動植物の生息・生育に影響を及ぼしている懸念があります。				

【千川上水】

現地写真					
ビオトープ タイプ	樹林 ●	草地 ○	水辺 ●	農地 —	生態的回廊 ●
確認された 動植物	・ 植物は、水辺の生育種を中心に 102 種が確認されました。 ・ 哺乳類は、在来種アズマモグラ 1 種のみの確認でした。 ・ 鳥類は、カルガモ、ハクセキレイなど水辺の鳥を含む 15 種が確認されました。 ・ 両生類・爬虫類は、確認されませんでした。 ・ 昆虫類・クモ類は、トンボ類など水辺の昆虫類を中心に 47 種が確認されました。 ・ 水生動物は、在来種を含め、比較のために臨時で調査を実施した玉川上水とほぼ同じで 9 種が確認され最多でした。				
地区の特色 と課題	・ 本市の北端を流れる千川上水は、本市では限られた水辺環境が形成されており、ここを通じて市内の生きものの移動経路となる生態的回廊（コリドー）の機能を有しています。 ・ 水辺に形成される生物群集が存在しており、環境学習の場としての利用も望めます。 ・ 飼い犬の散歩、野良猫の確認はほとんど無く、その点は野生動物にとっての圧迫要因は避けられていると考えられます。 ・ 大型化したコイが多数生息、また、西日本由来のカワムツが優占種である現状については、個体数管理等の対策が考えられます。				

【仙川（桜堤公園）】

現地写真					
ビオトープ タイプ	樹林 ○	草地 ●	水辺 ●	農地 —	生態的回廊 ●
確認された 動植物	・ 植物は、希少種が確認された一方で、外来種オオバタクサが確認されるなど、住宅地の中にあって計 160 種と比較的多くの種が確認されました。 ・ 哺乳類は、在来種アズマモグラ、アブラコウモリ、外来種クマネズミの計 3 種が確認されました。 ・ 鳥類は、都市鳥を中心に 12 種が確認されました。 ・ 両生類・爬虫類は、3 種が確認されました。 ・ 昆虫類・クモ類は、計 58 種が確認され、水辺性のトンボ類など、各グループがバランス良く確認されました。 ・ 水生動物は、魚類では在来種のドジョウほか 2 種、甲殻類でカワリヌマエビ属の 1 種、アメリカザリガニの 2 種が確認されました。				
地区の特色 と課題	・ 住宅地の中を流れる河川ですが、比較的豊かな自然環境が意識的に保全されており、ここを通じて市内の生きものの移動経路となる生態的回廊（コリドー）の機能を有しています。 ・ 樹林・草地・水辺の環境要素を備え、動植物種も住宅地の中にあって比較的豊富でした。 ・ 限られた緑地空間で飼い犬の散歩、野良猫の存在は、生息する野生動物にとっての圧迫要因となる懸念があります。 ・ 親水的な空間として整備されており、周辺住民に呼びかけた自然観察会や環境学習会の場としても利用が可能と考えられます。				

【都立小金井公園】

現地写真					
ビオトープ タイプ	樹林 ●	草地 ●	水辺 —	農地 —	生態的回廊 ●
確認された 動植物	・ 植物は、樹林性、草地性の種がバランス良く確認されたものの、面積に比して計 117 種とあまり多くの種は確認されませんでした。 ・ 哺乳類は、在来種アズマモグラ、外来種クマネズミが確認されました。 ・ 鳥類は、猛禽類のほか、シジュウカラ、コゲラなどの混群が見られるなど 14 種が確認されました。 ・ 両生類・爬虫類は、2 種が確認されました。 ・ 昆虫類は、ショウリョウバッタなどのバッタ類、クモヘリカメムシなどカメムシ類、ツバメシジミなどのチョウ類など、計 64 種と比較的多くの種が確認されました。 ※ 水生動物については、調査を実施していません。				
地区の特色 と課題	・ 本市の北西端に位置する自然の大拠点であり、隣接する小金井市と繋がり市内の生きもの移動経路となる生態的回廊（コリドー）の機能を有しています。 ・ 高次消費者の存在を含め樹林性・草地性の動植物が豊富でした。 ・ 限られた緑地空間で飼い犬の散歩、野良猫の存在は、生息する野生動物にとっての圧迫要因となる懸念があります。 ・ テニスコートなどスポーツ利用の空間が中心ですが、一部にはススキ群落などの空間も残されており、保全と利用のバランスを調整することが考えられます。				

資料編（確認種リスト）

植物

No.	目名	科名	種名	希少種区分		外来種区分		備考
				環境省RDB	東京都RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
1	ハナヤスリ目	ハナヤスリ科	オオハナワラビ					
2			ヒロハハナヤスリ		EN			
3	トクサ目	トクサ科	スギナ					
4			トクサ					
5	フサシダ目	カニクサ科	カニクサ					
6	ウラボシ目	イノモトソウ科	ハコネシダ					
7			イノモトソウ					
8		メシダ科	イヌワラビ					
9		オシダ科	ヤブソテツ					
10			クマワラビ					
11			ベニシダ					
12			イノデ					
13		ウラボシ科	ヒメノキシノブ					
14			ノキシノブ					
15		コバノイシカグマ科	イヌシダ					
16		チャセンシダ科	トラノオシダ					
17		ヒメシダ科	ゲジゲジシダ					
18			ヒメシダ					
19			ミドリヒメワラビ					
20		コウヤワラビ科	クサソテツ					
21	イチヨウ目	イチヨウ科	イチヨウ					栽培種
22	マツ目	マツ科	ヒマラヤスギ					栽培種
23			アカマツ					
24		ヒノキ科	ヒノキ					
25			サウラ					
26			カイヅカイブキ					栽培種
27			コノテガシワ					栽培種
28		イチイ科	イチイ					
29			カヤ					
30	アウストロバイレヤ目	マツバサ科	サネカズラ					
31	モクレン目	モクレン科	ユリノキ					栽培種
32			タイサンボク					
33			ホオノキ					
34			モクレン					栽培種
35			コブシ					
36	クスノキ目	クスノキ科	クスノキ					
37			ヤブニツケイ					
38			ニツケイ	NT				栽培種
39			ゲツケイジュ					栽培種
40			ヤマコウバシ					
41	コショウ目	ドクダミ科	ドクダミ					
42	ショウブ目	ショウブ科	ショウブ		NT			
43			セキショウ					
44	オモダカ目	サトイモ科	ウラシマソウ					
45			カラスビシャク					
46		オモダカ科	クワイ					
47			ヘラオモダカ		NT			
48	ヤマノイモ目	ヤマノイモ科	ヤマノイモ					
49			オニドコロ					
50	ユリ目	ユリ科	ホウチャクソウ					
51			ヤマユリ					
52			ウバユリ					
53			テッポウユリ					
54			ヤマジノホトギス		NT			
55			オニユリ					
56		シオデ科	サルトリイバラ					
57			タチシオデ					
58		イヌサフラン科	チゴユリ					
59	キジカクシ目	ユリ科	ヤブカンソウ					外来種
60			ノビル					
61			ニラ					
62			ハラン					
63			オオバギボウシ					
64			ヤブラン					
65			ジャノヒゲ					
66			オオバジャノヒゲ					
67			キチジョウソウ					
68			ツルボ					
69		ラン科	シラン	NT				植栽の可能性
70			キンラン	VU	VU			

No.	目名	科名	種名	希少種区分		外来種区分		備考
				環境省RDB	東京都RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
71			マヤラン	VU				
72			ネジバナ					
73			エビネ	NT	VU			
74			ギンラン		VU			
75			ササバギンラン		NT			
76		アヤメ科	シャガ					
77			キシノウエ				重点対策外来種	外来種
78			カキツバタ	NT	CR			植栽の可能性
79			ニワゼキショウ					外来種
80		ヒガンバナ科	ヒガンバナ					外来種
81			キツネノカミソリ		VU			
82		ススキノキ科	ノカンゾウ					
83			ムサシノキスゲ		VU			
84		キジカクシ科	コバギボウシ					
85			ナガバジャノヒゲ					
86	ヤシ目	ヤシ科	シュロ					
87			トウシュロ					栽培種
88	イネ目	ガマ科	ヒメガマ					
89			ガマ					
90		イグサ科	クサイ					外来種
91			スズメノヤリ					
92		カヤツリグサ科	ヒカゲスゲ					
93			ナキリスゲ					
94			チャガヤツリ					
95			ヒメクグ					
96			メリケンガヤツリ				重点対策外来種	外来種
97			カンエンガヤツリ	VU	NT			
98			コゴメガヤツリ					
99			カヤツリグサ					
100			カンガレイ					
101			マツカサススキ		VU			
102			ウキヤガラ		NT			
103			エナシヒゴクサ					
104			アオスゲ					
105			ミヤマシラスゲ					
106			ヒメカンスゲ					
107			アゼナルコ					
108			シラスゲ					
109			マスクサ					
110			カワラスゲ					
111			ジュズスゲ					
112			ヒゴクサ					
113			ミコシガヤ					
114			ヤブスゲ					
115			モエギスゲ					
116		イネ科	カモジグサ					
117			メリケンカルカヤ				その他の総合対策外来種	外来種
118			コフナグサ					
119			アズマネザサ					
120			イヌムギ					外来種
121			ジュズダマ					外来種
122			メヒシバ					
123			コメヒシバ					
124			アキメヒシバ					
125			イスビエ					
126			オヒシバ					
127			カゼクサ					
128			チガヤ					
129			アシカキ		NT			
130			ササクサ		NT			
131			ササガヤ					
132			アシボソ					
133			オギ					
134			ススキ					
135			ケチヂミザサ					
136			コチヂミザサ					
137			シマスズメノヒエ				その他の総合対策外来種	外来種
138			スズメノヒエ					
139			チカラシバ					
140			ツルヨシ					
141			モウソウチク				産業管理外来種	外来種
142			クマザサ					栽培種
143			イヌアワ					
144			アキノエノコログサ					
145			キンエノコロ					
146			エノコログサ					
147			オオエノコロ					
148			オカメザサ					
149			アオカモジグサ					
150			コスカグサ				産業管理外来種	外来種

No.	目名	科名	種名	希少種区分		外来種区分		備考
				環境省RDB	東京都RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
151			ヌカボ					
152			ヒメコバンソウ					外来種
153			オニウシノケグサ				産業管理外来種	外来種
154			トボシガラ					
155			ムギクサ					外来種
156			ネズミホソムギ				産業管理外来種	外来種
157			クサヨシ					
158			ヨシ					
159			スズメノカタビラ					
160			ナガハグサ					外来種
161			イチゴツナギ					
162			オオスズメノカタビラ					外来種
163			ヒエガエリ					
164			ネズミノオ					
165			ナギナタガヤ				産業管理外来種	外来種
166	ツユクサ目	ツユクサ科	ツユクサ					
167			ヤブミョウガ					
168			ムラサキツユクサ					外来種
169			ノハカタカラクサ				重点対策外来種	外来種
170	キンボウゲ目	ケシ科	ヤマブキソウ		OR			
171			タケニグサ					
172			クサノオウ					
173			ムラサキケマン					
174		アケビ科	アケビ					
175			ムベ					
176		メギ科	ヒイラギナンテン				その他の総合対策外来種	外来種
177			ナンテン					
178			イカリソウ		EN			
179		キンボウゲ科	ボタンヅル					
180			センニンソウ					
181			ニリンソウ		NT			
182			セリハヒエンソウ					外来種
183			ケキツネノボタン					
184		ツツラフジ科	アオツツラフジ					
185	ツゲ目	ツゲ科	フッキソウ					
186			ツゲ		非分布			
187	ユキノシタ目	マンサク科	トキワマンサク	EN				植栽の可能性
188		カヅラ科	カヅラ					
189		ユズリハ科	ユズリハ					
190		ベンケイソウ科	コモチマンネングサ					
191			メキシコマンネングサ					外来種
192			タイトゴメ					
193			ツルマンネングサ					
194		ユキノシタ科	タコノアシ	NT	NT			
195			チダケサシ		EN			
196			ユキノシタ					栽培種
197	ブドウ目	ブドウ科	ノブドウ					
198			ヤブガラシ					
199			ツタ					
200	ニシキギ目	ニシキギ科	ツルウメモドキ					
201			ニシキギ					
202			マユミ					
203	カタバミ目	カタバミ科	イモカタバミ					外来種
204			カタバミ					
205			アカカタバミ					
206			ウスアカカタバミ					
207			オウタチカタバミ					外来種
208			ムラサキカタバミ					外来種
209	キントラノオ目	スミレ科	タチツボスミレ					
210			コスミレ					
211			スミレ					
212			アオイスミレ					
213			ヒメスミレ					
214			アメリカスミレサイシン					外来種
215			ツボスミレ					
216		イイギリ科	イイギリ					
217		トウダイグサ科	エノキグサ					
218			コニシキソウ					外来種
219			アレチニシキソウ					外来種
220			オオニシキソウ					
221			アカメガシワ					
222			ナンキンハゼ				その他の総合対策外来種	外来種
223			ナガエコミカンソウ					外来種
224			コミカンソウ					
225		ヤナギ科	ヤナギ科sp.					
226	マメ目	マメ科	ヤブマメ					
227			ネムノキ					
228			カワラケツメイ		VU			
229			アレチヌスビトハギ				その他の総合対策外来種	外来種
230			ヌスビトハギ					

No.	目名	科名	種名	希少種区分		外来種区分		備考
				環境省RDB	東京都RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
231			マルバヤハズソウ					
232			ヤハズソウ					
233			ヤマハギ					
234			メドハギ					
235			マルバハギ					
236			エンジュ					外来種
237			シロツメクサ					外来種
238			ヤハズエンドウ					
239			フジ					
240			フジカンゾウ					
241			ツルマメ					
242			ネコハギ					
243			ムラサキツメクサ					外来種
244	バラ目	バラ科	キンミズヒキ					
245			ボケ					
246			ヘビイチゴ					
247			ビワ				産業管理外来種	外来種
248			ヤマブキ					
249			コゴメウツギ					
250			カマツカ					
251			ウメ					栽培種
252			ソメイヨシノ					
253			シャリンバイ					
254			ヤマザクラ					
255			シロヤマブキ	EN				植栽の可能性
256			ノイバラ					
257			クサイチゴ					
258			ヤブヘビイチゴ					
259			モミジイチゴ					
260			ナワシロイチゴ					
261			カジイチゴ					
262			シモツケ					
263			ユキヤナギ					
264		ニレ科	アキニレ					
265			ケヤキ					
266			ムクノキ					
267			エノキ					
268		クワ科	クワクサ					
269			イスビワ					
270			マグワ					栽培種
271		アサ科	カナムグラ					
272		イラクサ科	ヤブマオ					
273			クサマオ					
274			メヤブマオ					
275		グミ科	マルバグミ					
276	ウリ目	ウリ科	カラスウリ					
277			キカラスウリ					
278	ブナ目	ブナ科	クリ					
279			スダジイ					
280			マテバシイ					
281			クヌギ					
282			アラカシ					
283			シラカシ					
284			ウバメガシ					
285			コナラ					
286		ヤマモモ科	ヤマモモ					
287		カバノキ科	クマシデ					
288			アカシデ					
289		カバノキ科	イヌシデ					
290		クルミ科	オニグルミ					
291	フウロソウ目	フウロソウ科	ゲンノショウコ					
292			アメリカフウロ					外来種
293	フトモモ目	アカバナ科	コマツヨイグサ				重点対策外来種	外来種
294			メマツヨイグサ					外来種
295			ユウゲショウ					外来種
296		ミソハギ科	ミソハギ					
297	ムクロジ目	ウルシ科	ヌルデ					
298			ヤマハゼ					
299		カエデ科	トウカエデ					外来種
300			イロハモミジ					
301			オオモミジ					
302		トチノキ科	トチノキ					
303		ムクロジ科	ムクロジ					
304		ミカン科	ユズ					栽培種
305			サンショウ					
306		センダングラ科	センダン					
307		ニガキ科	シンジュ				重点対策外来種	外来種
308			ニガキ					
309	アオイ目	シナノキ科	カラスノゴマ					
310		アオギリ科	アオギリ					栽培種

No.	目名	科名	種名	希少種区分		外来種区分		備考
				環境省RDB	東京都RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
311		アオイ科	ムクゲ					外来種
312	アブラナ目	アブラナ科	マメグンバイナズナ					外来種
313			ハナダイコン					外来種
314			イヌガラシ					
315			ナズナ					
316			スカシタゴボウ					
317	ナデシコ目	タデ科	ミズヒキ					
318			ギンミズヒキ					
319			シンミズヒキ					
320			ジャクチリソバ				その他の総合対策外来種	外来種
321			ヤナギタデ					
322			オオイヌタデ					
323			イヌタデ					
324			ハナタデ					
325			ミチヤナギ					
326			ギシギシ					
327			エゾノギシギシ				その他の総合対策外来種	外来種
328			イタドリ					
329			アレチギシギシ					
330			ナガバギシギシ				その他の総合対策外来種	外来種
331	ナデシコ科		ツメクサ					
332			ウシハコベ					
333			ノミノツツリ					
334			オランダミナグサ					外来種
335			コハコベ					外来種
336		ヒユ科	ヒカゲイノコズチ					
337			ヒナタイノコズチ					
338		アカザ科	シロザ					外来種
339		ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ					外来種
340		オシロイバナ科	オシロイバナ					外来種
341		スベリヒユ科	スベリヒユ					
342	ミズキ目	ユキノシタ科	ウツギ					
343			マルバウツギ					
344			アジサイ					栽培種
345		ミズキ科	ミズキ					
346			ハナミズキ					栽培種
347			ヤマボウシ					
348			サンシュユ					栽培種
349			アオキ					
350			クマノミズキ					
351		アジサイ科	ヒメウツギ					
352	ツツジ目	ツバキ科	ヒサカキ					
353			モッコク					
354			ヤブツバキ					
355			サザンカ					栽培種
356			チャノキ					栽培種
357			ナツツバキ					
358		カキノキ科	カキノキ					栽培種
359		ヤブコウジ科	マンリョウ					
360			ヤブコウジ					
361		サクラソウ科	コナスビ					
362		ハイノキ科	サワフタギ					
363		エゴノキ科	エゴノキ					
364			ハクウンボク					
365		ツツジ科	ドウダンツツジ					
366			アセビ					
367			サツキ					
368			ヤマツツジ					
369	リンドウ目	アカネ科	ヒメヨツバムグラ					
370			クチナシ					
371			ハシカグサ					
372			ヘクソカズラ					
373			ヨツバムグラ					
374			ヤエムグラ					
375		ガガイモ科	ガガイモ					
376		キョウチクトウ科	テйкаカズラ					
377	シソ目	モクセイ科	ネズミモチ					
378			トウネズミモチ				重点対策外来種	外来種
379			イボタノキ					
380			キンモクセイ					外来種
381			ヒイラギ					
382		ゴマノハグサ科	ツタバウンラン					外来種
383			オオイヌノフグリ					外来種
384			ウリクサ					
385			フジウツギ					
386		オオバコ科	オオバコ					
387			ヘラオオバコ					外来種
388			タチイヌノフグリ					外来種
389			ムシクサ					
390		シソ科	ジュウニヒトエ					

No.	目名	科名	種名	希少種区分		外来種区分		備考
				環境省RDB	東京都RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
391			トウバナ					
392			カキドオシ					
393			イヌコウジュ					
394			シソ					栽培種
395			キランソウ					
396			ホトケノザ					
397			ニガクサ					
398		クマツヅラ科	コムラサキ					
399			ムラサキシキブ					
400			クサギ					
401		ノウゼンカズラ科	キリ					栽培種
402		ハエドクソウ科	ハエドクソウ					
403			サギゴケ					
404			トキワハゼ					
405		キツネノマゴ科	キツネノマゴ					
406	ナス目	ヒルガオ科	コヒルガオ					
407			ヒルガオ					
408		ナス科	クコ					
409			ホオズキ					栽培種
410			テリミノイヌホオズキ					
411			フルナスビ					外来種
412			ヒヨドリジョウゴ					
413			アメリカイヌホオズキ					外来種
414	モチノキ目	モチノキ科	イヌツゲ					
415			モチノキ					
416			タラヨウ					
417			ソヨゴ					
418			アオハダ					
419		ハナイカダ科	ハナイカダ					
420	キク目	キク科	オオブタクサ				重点対策外来種	外来種
421			ヨモギ					
422			ノコンギク					
423			シラヤマギク					
424			アメリカセンダングサ				その他の総合対策外来種	外来種
425			コセンダングサ					外来種
426			ヒレアザミ					
427			ヤブタバコ					
428			ノハラアザミ					
429			アレチノギク					外来種
430			オオアレチノギク					外来種
431			アメリカカタサブロウ					外来種
432			オオハルシヤギク					
433			ベニバナボロギク					
434			ダンドボロギク					外来種
435			ヒメジョオン				その他の総合対策外来種	外来種
436			ヒメムカシヨモギ					外来種
437			ハルジオン					外来種
438			ヘラバヒメジョオン					外来種
439			ツワブキ					
440			ハハコグサ					
441			チチコグサモドキ					外来種
442			ウラジロチチコグサ					外来種
443			イヌキクイモ					外来種
444			ユウガギク					
445			カントウヨメナ					
446			アキノノゲシ					
447			ノボロギク					外来種
448			フキ					
449			セイタカアワダチソウ				重点対策外来種	外来種
450			オノノゲシ					外来種
451			セイヨウタンポポ				重点対策外来種	外来種
452			オニタビラコ					
453			ハキダメギク					外来種
454			ブタクサ					外来種
455			シロヨメナ					
456			ノアザミ					
457			アメリカオニアザミ				その他の総合対策外来種	外来種
458			オオキンケイギク			特定外来生物	緊急対策外来種	外来種
459			タチチチコグサ					外来種
460			チチコグサ					
461			キツネアザミ					
462			ブタナ					外来種
463			イワニガナ					
464			ムラサキニガナ					
465			ヤブタビラコ					
466			コウヤボウキ					
467			ノゲシ					
468			カントウタンポポ					
469		キキョウ科	ホタルブクロ					
470			ヤマホタルブクロ					

No.	目名	科名	種名	希少種区分		外来種区分		備考
				環境省RDB	東京都RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
471			キキョウソウ					外来種
472	セリ目	ウコギ科	タラノキ					
473			カクレミノ					
474			ヤマウコギ					
475			ヤツデ					
476			キツタ					
477			ウド					
478		セリ科	チドメグサ					
479			ミツバ					
480			アシタバ					
481			セリ					
482			ヤブニンジン					
483			ウマノミツバ					
484			ヤブジラミ					
485			オヤブジラミ					
486	マツムシソウ目	スイカズラ科	ニワトコ					
487			ガマズミ					
488			サンゴジュ					
489			スイカズラ					
490			ハナソノツクハネウツギ					栽培種
491			ウグイスカグラ					
492	センリョウ目	センリョウ科	フタリシズカ					
493	ショウガ目	ショウガ科	ミョウガ					
494	クロツソマ目	ミツバウツギ科	ゴンズイ					
495	ムラサキ目	ムラサキ科	ハナイバナ					
496			キュウリグサ					
合計48目121科496種								

哺乳類

No.	目名	科名	種名	希少種区分		外来種区分		備考
				環境省RDB	東京都RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
1	モグラ目	モグラ科	アズマモグラ					モグラ塚による推定
2	コウモリ目	ヒナコウモリ科	アブラコウモリ					聞き取りによる推定を含む
3	ネズミ目	ネズミ科	クマネズミ				緊急対策外来種	外来種
4	ネコ目	イヌ科	ホンダタヌキ					
5		ジャコウネコ科	ハクビシン				重点対策外来種	外来種
6		アライグマ科	アライグマ			特定外来生物	緊急対策外来種	外来種
合計4目6科6種								

鳥類

No.	目名	科名	種名	希少種区分		外来種区分		備考
				環境省RDB	東京都RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
1	ペリカン目	サギ科	アオサギ					
2	カモ目	カモ科	カルガモ					
3	ハト目	ハト科	ドバト					外来種
4			キジハト					
5	カッコウ目	カッコウ科	ツツドリ		非分布			羽による推定
6	タカ目	タカ科	ツミ		CR			
7			オオタカ	NT	EN			
8	フクロウ目	フクロウ科	フクロウ		EN			聞き取りによる推定
9	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ		NT			
10	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ					
11			アオゲラ		NT			
12	スズメ目	モズ科	モズ		VU			
13		ツバメ科	ツバメ					
14		カラス科	オナガ					
15			ハシボトガラス					
16			ハシボソガラス					
17		シジュウカラ科	ヤマガラス		NT			
18			シジュウカラ					
19			ヒガラ					
20		ヒヨドリ科	ヒヨドリ					
21		ツグミ科	ツグミ					
22		エナガ科	エナガ		NT			
23		メジロ科	メジロ					
24		ムクドリ科	ムクドリ					
25		スズメ科	スズメ					
26		ウグイス科	ウグイス		NT			
27		セキレイ科	ハクセキレイ					
28		アトリ科	カワラヒワ					
29			マヒワ					
30			アトリ					
31		ホオジロ科	アオジ					
32	オウム目	インコ科	ワカケホンセイインコ				その他の総合対策種	外来種
合計10目23科32種								

爬虫類

No.	目名	科名	種名	希少種区分		外来種区分		備考
				環境省RDB	東京都RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止外来 種リスト	
1	有鱗目	トカゲ科	ヒガシニホントカゲ		VU			
2		カナヘビ科	ニホンカナヘビ		VU			
3		ナミヘビ科	アオダイショウ		NT			
合計1目3科3種								

両生類

No.	目名	科名	種名	希少種区分		外来種区分		備考
				環境省RDB	東京都RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
1	無尾目(カエル目)	ヒキガエル科	ヒキガエル					
2		アカガエル科	ニホンアカガエル		EN			
3			トウキョウダルマガエル	NT	EN			
4		アマガエル科	ニホンアマガエル		VU			
合計1目3科4種								

昆虫類

No.	目名	科名	種名	希少種区分		外来種区分		備考
				環境省RDB	東京都RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
1	トンボ目	アオイトトンボ科	オオアオイトトンボ					
2		カワトンボ科	ハグロトンボ					
3		ヤンマ科	クロスジゲンヤンマ					
4		サナエトンボ科	コオニヤンマ					
5		ヤマトンボ科	オオヤマトンボ					
6		トンボ科	ノシメトンボ					
7			アキアカネ					
8			マユタテアカネ					
9			コシアキトンボ					
10			ウスバキトンボ					
11			シオカラトンボ					
12	ハサミムシ目	ハサミムシ科	ヒゲジロハサミムシ					
13	カマキリ目	カマキリ科	オオカマキリ					
14			ハラビロカマキリ					
15	ゴキブリ目	チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ					
16	バッタ目	コオロギ科	エンマコオロギ					
17			モリオカメコオロギ					
18			ハラオカメコオロギ					
19			ツツレサセコオロギ					
20		マツムシ科	アオマツムシ					外来種
21		ヒバリモドキ科	マダラスズ					
22			シバスズ					
23		カネタタキ科	カネタタキ					
24		キリギリス科	ヒメギス					
25			クサキリ					
26			クビキリギス					
27			ホシササキリ					
28			ササキリ					
29		ツユムシ科	ツユムシ					
30			サトクダマキモドキ					
31		ノミバッタ科	ノミバッタ					
32		ヒシバッタ科	ハラヒシバッタ					
33		オンブバッタ科	オンブバッタ					
34		バッタ科	ツチイナゴ					
35			コバネイナゴ					
36			ショウリョウバッタ					
37			ショウリョウバッタモドキ		VU			
38			ヒナバッタ					
39			トノサマバッタ					
40			クルマバッタモドキ					
41	カメムシ目	アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ					
42		セミ科	アブラゼミ					
43			ツクツクボウシ					
44			ニイニゼミ					
45		トゲアワフキムシ科	ムネアカアワフキ					
46		オオヨコバイ科	ツマグロオオヨコバイ					
47			オオヨコバイ					
48		アブラムシ科	ヤノクチナガオオアブラムシ					
49			エノキワタアブラムシ					
50			タイワンヒゲナガアブラムシ					
51			セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ					外来種
52			エゴノネコシアブラムシ					
53		ワタフキカイガラムシ科	オオワラジカイガラムシ					
54		アメンボ科	アメンボ					
55			ヒメアメンボ					
56		サシガメ科	ヨコヅナサシガメ					
57			アカサシガメ					
58			シマサシガメ					
59		イトカメムシ科	ヒメイトカメムシ					
60		ナガカメムシ科	ジュウジナガカメムシ					

No.	目名	科名	種名	希少種区分		外来種区分		備考
				環境省RDB	東京都RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
61			ヒゲナガカメムシ					
62		オオホシカメムシ科	ヒメホシカメムシ					
63			オオホシカメムシ					
64		ホソヘリカメムシ科	クモヘリカメムシ					
65			ホソヘリカメムシ					
66		ヘリカメムシ科	ホオズキカメムシ					
67			ホソハリカメムシ					
68			ハリカメムシ					
69		クヌギカメムシ科	ヘラクヌギカメムシ					
70		ツチカメムシ科	ツチカメムシ					
71		キンカメムシ科	アカスジキンカメムシ					
72		カメムシ科	ウズラカメムシ					
73			キマダラカメムシ					
74			ブチヒゲカメムシ					
75			ナガメ					
76			シラホシカメムシ					
77			ツヤアオカメムシ					
78			アオクサカメムシ					
79			チャバネアオカメムシ					
80		ツノカメムシ科	セアカツノカメムシ					
81			エサキモンキツノカメムシ					
82	アミメカゲロウ目	クサカゲロウ科	アミメクサカゲロウ					
83	コウチュウ目	オサムシ科	トウキョウヒメハシミョウ					
84			コルリアトキリゴミムシ					外来種
85		シデムシ科	オオヒラタシデムシ					
86		コガネムシ科	ヒゲフトハナムグリ		NT			
87			コイチャコガネ					
88			アオドウガネ					
89			ヒラタアオコガネ					
90			ヒメコガネ					
91			セマダラコガネ					
92			ヒラタハナムグリ					
93			ヒメトラハナムグリ		NT			
94			シロテンハナムグリ					
95			カナブン					
96		タマムシ科	ヤマトタマムシ					
97			クワナガタマムシ					
98			ヤノナミガタチビタマムシ					
99		コメツキムシ科	サビキコリ					
100		カツオブシムシ科	ヒメマルカツオブシムシ					
101		ケンキスイ科	ヨツボシケンキスイ					
102		テントウムシダマシ科	ヨツボシテントウダマシ					
103		テントウムシ科	アカホシテントウ					
104			ムーアシロホシテントウ					
105			シロジュウシホシテントウ					
106			ナナホシテントウ					
107			ナミテントウ					
108			ヒメカメノコテントウ					
109			トホシテントウ					
110			オオニジュウヤホシテントウ					
111			ニジュウヤホシテントウ					
112			キイロテントウ					
113			モンクチビルテントウ					外来種
114		ゴミムシダマシ科	トビイロクチキムシ					
115		カミキリムシ科	ツヤケシハナカミキリ					
116			フタオビミドリトラカミキリ					
117			ゴマダラカミキリ					
118			ラミーカミキリ					
119			キクスイカミキリ					
120		ハムシ科	キイロクビナガハムシ					
121			キバラルリクビボソハムシ					
122			ヤマイモハムシ					
123			イチモンジカメノコハムシ					
124			フジハムシ					
125			ヤツボシハムシ					
126			ヤナギルリハムシ					
127			テントウノミハムシ					
128			ヘリグロテントウノミハムシ					
129			ヒメテントウノミハムシ					
130			ルリマルノミハムシ					
131			エグリバケフカハムシ					
132			サンゴジュハムシ					
133			ウリハムシモドキ					
134			ウリハムシ					
135			クロウリハムシ					
136			アトボシハムシ					
137			バラルリツツハムシ					
138			クロボシツツハムシ					
139			コフキサルハムシ					
140			ドウガネサルハムシ					

No.	目名	科名	種名	希少種区分		外来種区分		備考
				環境省RDB	東京都RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
141			キカサハラハムシ					
142			イモサルハムシ					
143		オトシブミ科	エゴツルクビオトシブミ					
144			カシルリオトシブミ					
145		ゾウムシ科	スグリゾウムシ					
146	ハチ目	ミフシハバチ科	ルリチュウレンジ					
147		ハバチ科	ハグロハバチ					
148		ツチバチ科	ヒメハラナガツチバチ					
149			キンケハラナガツチバチ					
150			コモシツチバチ					
151		アリ科	アズマオオズアリ					
152			アミメアリ					
153			クロオオアリ					
154			クロヤマアリ					
155			トビイロケアリ					
156		ドロバチ科	スズバチ					
157		スズメバチ科	セグロアシナガバチ					
158			キボシアシナガバチ					
159			コアシナガバチ					
160			コガタスズメバチ					
161			オオスズメバチ					
162			キイロスズメバチ					
163			クロスズメバチ					
164		ハキリバチ科	バラハキリバチ					
165		ミツバチ科	キムネクマバチ					
166			ダイミョウキマダラハナバチ					
167			トラマルハナバチ					
168			コマルハナバチ					
169			ニホンミツバチ					
170			セイヨウミツバチ					外来種
171	ハエ目	ガガンボ科	ベッコウガガンボ					
172		カ科	ヒトスジシマカ					
173		ミズアブ科	アメリカミズアブ					外来種
174		ムシヒキアブ科	アオメアブ					
175		ハナアブ科	ホソヒラタアブ					
176			スイセンハナアブ					
177			ハチモドキハナアブ		留意種			
178			キゴシハナアブ					
179			シマハナアブ					
180			アシフトハナアブ					
181			タカサゴハラフトハナアブ					
182			マツムラハラフトハナアブ					
183			シマアシフトハナアブ					
184		クロバエ科	ツマグロキンバエ					
185	チョウ目	ヒゲナガガ科	ホソオビヒゲナガ					
186		スカシバガ科	コスカシバ					
187		イラガ科	ヒメクロイラガ					
188		マダラガ科	ブドウスカシクロバ					
189		ツトガ科	シロオビノメイガ					
190			アズキノメイガ					
191		カイコガ科	クワコ					
192		スズメガ科	ウンモンズズメ					
193			サザナミズズメ					
194			オオスカシバ					
195		ジャクガ科	マエキトビエダジャク					
196			ウスキツバメエダジャク					
197		ドクガ科	キアシドクガ					
198		ヒトリガ科	スジベニコケガ					
199			アメリカシロヒトリ					外来種
200		ヤガ科	オオウンモンクチバ					
201			シラホシコヤガ					
202		セセリチョウ科	ダイミョウセセリ					
203			キマダラセセリ					
204			チャバネセセリ					
205			イチモンジセセリ					
206		アゲハチョウ科	アゲハ					
207			クロアゲハ					
208			アオスジアゲハ					
209		シロチョウ科	キタキチョウ					
210			モンキチョウ					
211			モンシロチョウ					
212		シジミチョウ科	ムラサキシジミ					
213			アカシジミ					
214			ベニシジミ					
215			ウラナシジミ					
216			ヤマトシジミ					
217		タテハチョウ科	ツマグロヒョウモン					
218			コムスジ					
219			ホシミスジ					
220			ルリタテハ					

No.	目名	科名	種名	希少種区分		外来種区分		備考
				環境省RDB	東京都RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
221			ヒメアカタテハ					
222			アカボシゴマダラ			特定外来生物	重点対策外来種	外来種
223			ゴマダラチョウ					
224			ヒカゲチョウ					
225			サトキマダラヒカゲ					
226			ヒメジャノメ					
合計11目82科226種								

クモ類

No.	目名	科名	種名	希少種区分		外来種区分		備考
				環境省RDB	東京都RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
1	クモ目	アシナガクモ科	ジョロウクモ					
2		コガネクモ科	ムツトゲイセキクモ		非分布			
3		タナクモ科	コクサクモ					
4		カニクモ科	ハナクモ					
5		ハエトリクモ科	ネコハエトリ					
6			シラヒゲハエトリ					
7			アリクモ					
合計1目5科7種								

魚類

No.	目名	科名	種名	希少種区分		外来種区分		備考
				環境省RDB	東京都RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
1	コイ目	コイ科	コイ					
2			カワムツ					国内外来種
3			モツゴ					
4			カマツカ		NT			
5			ニゴイ		NT			
6			オイカワ					
7			キンギョ					改良品種
8		ドジョウ科	ドジョウ					
9	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	VU	CR+EN			
10			ヒメダカ					改良品種
11	スズキ目	ドンコ科	ドンコ					国内外来種
合計3目4科11種								

甲殻類

No.	目名	科名	種名	希少種区分		外来種区分		備考
				環境省RDB	東京都RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
1	エビ目	ヌマエビ科	カワリスヌマエビ属の一種					
2		アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ				総合対策外来種	外来種
合計1目2科2種								

武蔵野市生きものの調査報告書

令和2年3月

武蔵野市環境部環境政策課

T E L 0422-60-1841

F A X 0422-51-9197

メール sec-kankyou@city.musashino.lg.jp